収穫コンテナを活用したイチジクの簡易・安定生産技術の開発

【研究概要】

東京都における直売果樹品目の拡大を目的に、導入しやすく有利販売が見込める品目としてイチジクに着目した。イチジクの収穫コンテナを用いた簡易・安定生産技術の開発を目的に試験を実施した。

（１）「ドーフィン」の収穫コンテナ栽培3年目の樹体生育は、株間100㎝が旺盛だった。果実重は列間150cmで大きいが、列間150㎝と株間100㎝の組み合わせは着色が悪かった。定植３年では、収量性が高く果実品質が良好な列間185㎝と株間100㎝の組み合わせおよび列間150㎝と株間150㎝の組み合わせが有望である。

（２）収穫コンテナ栽培3年目の品種適応性試験では、「ドーフィン、バナナクイーン、カドタ、ビオレソリエス、ロードス、蓬莱柿」の全品種で結果枝長150㎝以上と生育旺盛であった。定植3年目においては、総収量が多く、果実品質が良好な「ドーフィン、バナナクイーン、蓬莱柿」がコンテナ栽培に適していると考えられる。